

第45回ぴあフィルムフェスティバル2023



会 期：2023年9月9日(土)～23日(土) オンライン配信は10月31日(火)まで
 会 場：国立映画アーカイブ
 主 催：(一社) PFF/ (独)国立映画アーカイブ/ (公財)川喜多記念映画文化財団/ (公財)ユニジャパン
 後 援：(特非)映像産業振興機構/ (協組)日本映画監督協会
 対 象：一般
 公式サイト URL：https://pff.jp/45th/

総来場者数(参加数)：7,111人/前年比92%
 (リアル参加：4,715人/前年比103%、
 オンライン視聴：2,396人/前年比75%)
 プレス社数：新聞社：8/通信社：1/雑誌：2/WEB：230/テレビ：1

■開催内容

●自主映画コンペティション「PFFアワード2023」

全国から応募された自主映画557本(前年比+37本)の中から選ばれた入選作品22本を各2回ずつ上映、さらに映画祭初日から映画祭終了後の10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、5名の最終審査員がグランプリほか各賞を発表。グランプリに輝いた中野晃太監督の『リテイク』をはじめ、合計8作品が受賞した。最終審査員：石井裕也(映画監督)、石川慶(映画監督)、岸田奈美(作家)、國實瑞恵(プロデューサー)、五月女ケイ子(イラストレーター)。



国立映画アーカイブのロビー

●いかすぜ! 70～80年代

「ぴあフィルムフェスティバル」草創期の1970～1980年代、自主映画のムーブメントが映画界に新風を吹き込んだ時代に話題となった監督や作品を、多彩な切り口で特集上映。長崎俊一監督、塩田明彦監督、緒方明監督、山川直人監督、塚本晋也監督、矢口史靖監督ら、この特集だけで18名に及ぶゲストたちが登壇し、ここでしか聞くことのできない貴重なエピソードを披露した。



PFF アワード 2023 受賞監督とプレゼンター

●アルノー・デプレシャン監督特集

フランスの名匠アルノー・デプレシャン監督が新作の公開に合わせて来日し、PFFでの特集上映に登壇。監督の参加は、1992年、1996年に続いて3回目となった。『二十歳の死』『魂を救え!』『そして僕は恋をする』『イスマエルの亡霊たち』を上映し、『すべての夜を思いだす』の清原惟監督とのトークも行った。また、デプレシャン監督が好きな日本映画『女囚701号 さそり』を上映し、主演の梶芽衣子と対談する企画も実現した。



アルノー・デプレシャン監督と梶芽衣子

●第29回PFFスカラシップ作品『恋脳Experiment』完成披露

『Journey to the 母性の目覚め』で2021年PFFアワード審査員特別賞を受賞した、岡田詩歌監督による長編劇場デビュー作『恋脳Experiment』をお披露目上映。岡田監督のほか、出演の袴キララ、平井亜門、中島歩がトークショーを行った。



「恋脳Experiment」の岡田監督と出演者

●映画音楽シリーズ「ブラック&ブラック」

2019年から続く、ピーター・バラカンの解説で楽しむ音楽映画シリーズ第8弾。今年は『ワツタックス』を上映し、バラカンと東京大学大学院教授・土屋和代がトークを行った。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

(一社) PFFでは1970年代以降の8ミリフィルムで製作された自主映画のデジタル化を行っており、今年の特集企画「いかすぜ! 70～80年代」では、大森一樹監督の8ミリ映画7本、斎藤久志監督、風間詩織監督の8ミリ映画をそれぞれ1本ずつデジタル映像で上映した。日本独自の映像文化として盛り上がった8ミリ映画を後世に伝えること、及び商業映画で活躍する監督の自主映画作品をスクリーンで上映する貴重な機会となった。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

①「第36回東京国際映画祭」との提携企画として、「PFFアワード2023」グランプリ作品『リテイク』を上映し、監督、出演者との質疑応答を実施した。



山中瑠子監督と古川琴音のトーク